

日蓮大聖人御書全集

ときあまごぜんごへんじ

富木尼御前御返事

新版
1316
）
1317

ときあまごぜんごへんじ
富木尼御前御返事

けんじ ねん がつ にち さい ときあま
建治2年(76) 3月27日 55歳 富木尼

がもくいっかん 筒
鵜目一貫ならびにつつひとつ、給び候た了おわんぬ。

矢 走
やのはしることは弓のちから、くものゆくことはりゆう竜

力 夫 仕 業 妻 力
のちから、おとこのしわざはめのちからなり。いまときどの富木殿

おん 渡 前
のこれへ御わたりあること、尼あまごぜんの御力なり。けぶり煙

見 火 雨 竜 夫 妻
をみれば火をみる。あめをみればりゆうをみる。おとこを見

いま富木殿 見 参 仕
ればめをみる。今ときどのにげんざんつかまつれば、尼あまご

見 覚
ぜんをみたてまつるとおぼう。

ときどのの御物がたり候は、「このはわのなげきのなか

臨終

善

あま

当

に、りんずうのよくおわせしと、尼がよくあたり、

看病

嬉

世

忘

かんびようせしことのうれしき、いつのよにわするべしと

覚

そろう

もおぼえず」と、よろこばれ候なり。

覚束

ごしよろう

なによりもおぼつかなきことは御所労なり。かまえて、

さんねん

灸治

たま

やまい

さもと三年、はじめのごとくにきゆうじせさせ給え。病な

ひと

むじよう

免

年

果

き人も無常まぬかれがたし。ただし、としのはてにはあら

ほけきよう

ぎようじや

ひんごう し

ず、法華経の行者なり。非業の死にはあるべからず。よも

ごうびよう

そろう

ごうびよう

ほけきよう

おんちから

業病にては候わじ。たとい業病なりとも、法華経の御力

頼 あじやせおう ほけきよう たも しじゅうねん いのち 延

たのもし。阿闍世王は法華経を持って四十年の命をのべ、

ちんしん じゅうごねん いのち あま 御 前 ほけきよう

陳鍼は十五年の命をのべたり。尼ごぜん、また、法華経の

ぎようじや ごしんじん つき 勝 潮 満

行者なり。御信心、月のまさるがごとく、しおのみつがご

やまい う いのち 延 思

とし。いかでか病も失せ寿ものびざるべきと強盛におぼ

み じ ころ もの 歎

しめし、身を持し心に物をなげかざれ。

歎 い きた とき 壱 岐 对 馬 大 宰 府

なげき出で来る時は、ゆき・つしまのこと、だざいふの

鎌 倉 ひとびと てん らく

こと、かまくらの人々の天の楽のごとにありしが、当時

筑 紫 向 留 妻子 征 夫 離

つくしへむかえば、とどまるめこ、ゆくおとこ、はなるる

皮 剥 顔 取 合

ときはかわをはぐがごとく、かおとかおとをとりあわせ、目

め

め 歎 しい 離 由比 浜

と目とをあわせてなげきしが、次第にはなれて、ゆいのはま、

稲 村 腰 越 酒 匂 箱 根 坂 いちにちふつか過

いなぶら、こしごえ、さかわ、はこねざか、一日二日すぐ

歩 遠 川 やま

るほどに、あゆみあゆみとおざかるあゆみも、かわも山も

隔 くも 打 添 涙 供

へだて雲もへだつれば、うちそうものはなみだなり、ともな

歎 悲 歎

るものはなげきなり。いかにかなしかるらん。かくなげか

蒙 古 兵 攻 来 やま うみ

んほどに、もうこのつわものせめきたらば、山か海も

生 捕 船 うち 高 麗 憂 目 遭

いけどりか、ふねの内か、こうらいかにてうきめにあわん。

とが にほんこく いっさいしゅじょう ふぼ

これひとえに、失もなくて日本国の一切衆生の父母たる

ほけきょう ぎょうじゃにちれん 故 罵

法華経の行者日蓮を、ゆえもなく、あるいはのり、あるい

う

小路

渡

狂

は打ち、あるいはこうじをわたし、ものにくるいしが、

じゅうらせつ

責

被

十羅刹のせめをかぼりてなれることなり。またまた、これ

ひやくせんまんおくばい 堪

こと

出

きた

より百千万億倍たえがたき事どもいで来るべし。かかる

ふしぎ

め

まえ

ご

覽

不思議を目の前に御らんあるぞかし。

われ

ほとけ

うたが

思

歎

我らは仏に疑いなしとおぼせば、なにのなげきかある

后

何

てん

う

由

べき。きさきになりてもなにかせん。天に生まれてもようし

りゆうによ

跡

継

まかはじやはだいびくに

列

なし。竜女があとをつぎ、摩訶波舎波提比丘尼のれちに

連

嬉

なんみようほうれんげきよう

つらなるべし。あらうれし、あらうれし。南無妙法蓮華経・

なんみようほうれんげきよう

とな

たま

きようきようきんげん

南無妙法蓮華経と唱えさせ給え。恐々謹言。

さんがつにじゅうしちにち

三月二十七日

あま御前

尼ごぜんへ

にちれん

日蓮

かおう

花押